

## R5 第2回地域協議会推進市民会議 委員の意見まとめ

グループ等	①地域（地域協議会）に関心を持ってもらうには	②地域協議会の活動にもっと気軽に参加してもらうには	③地域協議会の仲間を増やしていくには	④他団体・企業との積極的な連携・効率化を進めるには
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協議会の存在意義を知ってもらう必要がある。</li> <li>会報誌を発行する。SNSを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加して良かったと思える何かを。</li> <li>イベントを定期的に開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加して良かったと思ってもらうために、魅力ある取組み、地域の特性・特徴を生かした取組み、特技等を生かした取組み</li> <li>漠然と行うのではなく、目標設定を意識しながら、この分野はここまで行う等。</li> <li>委員に役割をしっかりと与えることが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校PTA、中学生ボランティアとの連携。学校ホームページでのPRによる好循環。</li> <li>地域にどんな団体があるかを知ることが大切。</li> <li>地域協議会を会報誌で紹介。</li> <li>ネットワークづくり（地域協議会と他機関との情報共有）</li> <li>企業・団体との連携に際して、地域協議会側が何を協力できるのかという視点が大切。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協議会の名前を、何をやる団体かわかりやすく。</li> <li>住民のニーズを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加対象により、活動時間を変える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協議会の活動は幅広く、少人数でやっていけるのかと悩みがある。</li> <li>楽しいこと、やりがい、成功体験の共有</li> <li>活動の中心となるメンバーの横のつながりを。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業と連携する際にイベント的な連携はしやすいと思うが、継続的な連携は課題が多い。</li> <li>地域団体との連携も、各団体の実績等をふまえ、丁寧に対応していく必要がある。</li> <li>市民活動ネットワークから情報を得る。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協議会の名前を親しみやすいものにする。</li> <li>地域の方に、地域課題を募集する。</li> <li>地域の方に寄り添うことができる活動を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加しやすい仕組みにする。（例 ごみ袋を配り、できるときにごみ拾い、SNSで活動を投稿）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の充実感等を共有し、次の参加へつなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応時中学校区では、応時ボランティアOSVがある。企業の食品ロスという課題から子ども食堂を立ち上げ、将来的に地域協議会と連携して学習支援まで広げたい。</li> <li>中学生の通学中のごみ拾い、通学路にプランターを置いて地域の方が花を管理等の取組を行い、これらが広がり協力者が増えていくことを期待。</li> <li>学校や企業を訪問する。他団体・企業の困りごとに寄り添い、一緒に活動できる部分は一緒に。応援してもらった際は、結果報告を行う。</li> <li>各団体のトップに加盟してもらう。</li> <li>困っていることを知らせる。</li> <li>他団体の活動も一緒にやってみる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きなイベントで、対面で活動をPRする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の制約をなくし、楽しい仕事にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の困りごとを地域の人たちが、支え合い助け合うと、さまざまな人材が集まると思う。</li> <li>地域の方が、私はこんなことができるアピールができる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北里小学校区地域協議会では、地域協議会の仕事は取りまとめであり、分野ごとに専門知識のある人に入ってもらっている。</li> </ul>
伊藤先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協議会は何をする団体なのかを周知することは良い。しかし、小学校区ごとの課題が異なるため、PRが難しいところがある。</li> <li>個人や家庭が抱えきれない地域課題を把握⇒地域リソース（人材、団体）の把握⇒どこを窓口にしてアプローチすると解決につながるかを考えることが大切。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>家族、個人が孤立する状態が1番まずい。家族単位、区単位で解決が難しい課題に、地域協議会が受け皿になって寄り添っていく。1人にさせない、家族単位にさせないというところに地域協議会の意味がある。孤立を防ぐことが、地域協議会のミッション。</li> <li>居場所づくりにつながっていくというところで、受け皿を自分たちで作っていくところに地域協議会の意味がある。どうやって自分たちの足りないところを他と連携してやっていくかが大切。</li> <li>地域協議会だけで完結できないことについて、市がネットワークづくりで活躍してほしい。</li> </ul>